

#### 4 例目のテリハボク果実の 和歌山県白浜町の海岸への漂着記録

久保田 信\*

Fruit of *Calophyllum inophyllum* L. washed ashore at a coast  
of Shirahama Town, Wakayama Prefecture, Japan  
as the forth record

Shin KUBOTA \*

\* 〒 649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459  
京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所  
\* Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and  
Research Center, Kyoto University, Shirahama Town 459, Nishimuro,  
Wakayama Prefecture 649-2211, Japan  
kubota.shin.5e@kyoto-u.ac.jp

和歌山県白浜町に所在する京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所周辺海岸には、これまで漂着例が稀少な熱帯系植物の散布体が記録されている(久保田 2011, 2016 など)。今回、テリハボク *Calophyllum inophyllum* L. の果実が再びここへ漂着したので報告する。

テリハボク(オトギリソウ科の高木)は、我が国では琉球



図1 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”に2016年12月3日に漂着したテリハボクの果実(2016年に2度目の漂着)

列島と小笠原諸島に生育するが(中西 2008), その果実1個が, 2016年12月3日に京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”に再び漂着した。本地域からは4例目の記録となる果実は, 長径約25mmの球体であった(図1)。

本種の果実の和歌山県下での漂着は, 串本町潮岬で最初に記録されており(中西 1999), また日本本土への漂着記録は, 1969年から40年間でわずか18個とたいへん稀である(中西・石井 2010)。和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”の周辺地域へは, 2008年以降, 9-11月に流れ着いたのが記録される様になったが, 相当低い頻度で, 年に1個あるかないかであった(久保田 2016)。しかし, 2016年には9月漂着の前例1個(久保田 2016)と併せ, 今回の12月の発見で, 1年に2回の漂着という今までにない記録となった。

#### 引用文献

- 久保田 信. 2011. 和歌山県沿岸に漂着したサガリバナ *Barringtonia racemosa* (サガリバナ科)の果実. 南紀生物 53(1): 78.  
中西弘樹. 1999. 漂着物学入門. 211pp., 平凡社, 東京.  
中西弘樹. 2008. 海から来た植物. 319pp., 八坂書房, 東京.  
中西弘樹・石井 忠. 2010. 日本本土における熱帯起源の漂着果実と種子の40年間の変化. 漂着物学会誌 8: 7-11.  
久保田 信. 2016. テリハボク果実の和歌山県白浜町への3度目の漂着. 漂着物学会会報「どんぶらこ」55: 16-17.